

んの記事がある。豊後土工の一人として活躍されたことを知る地元の人が少ないのが残念である。

### 【追記】

昔のトンネル工事の状況を知りたくて、あれこれ乱読、佐伯史談一七三号の表紙解説(吉田齊次郎氏)「常盤井路の岩盤を砕く」に先人の知恵の感銘を受けました。

今年、新橋―横浜間を走った一号機関車が国の重要文化財に指定されたことは、鉄道建設が国家繁栄の重要な役割をはたしたからであろう。

### 参考

佐伯史談一六八号

海部の地理 矢野 弥生

現代日本土木史

高橋 裕

その他

無人駅 花とベンチに 蝶の客



### 表紙解説

浅海井浦広浦シロガタオの国道二七号線から山道を十五分ほど入り込んだところに鯨魚墓(塔)が二基建立されている。国内では鯨の墓碑は、北は北海道の函館市から南は宮崎県の日南市まで四九基存在し、県内には、豊後高田市一基、臼杵市五基、本町一基の合わせて八基が確認されている。こうした鯨の冥福を祈る供養塔が本町に建立されていることは、昔は近海に鯨が多く現われ、人々の食生活に極めて重要であったことを示す貴重な資料である。二基の墓(塔)にはそれぞれ下記のように記されている。

古老の話とところによると、もと

広浦越しの道沿いにあったのを浅海井地区民の手によって現在のところに移設されたという。

(左側)

南無阿弥陀佛鯨魚墓

明治四十年十二月六日

(総高一四一尺 石質 凝灰岩)

(右側)

南無阿弥陀佛鯨魚塔

明治二十二年子旧正月一六日

(総高一三六尺 石質 凝灰岩)

日本周辺の海には、古い昔から鯨が回遊してきており、その鯨が日本人の大きな栄養源となっていた。時には、飢饉を救う救世主ともなり、まさに鯨国日本という言葉もあてはまるものであり、そうした鯨国日本の証拠ともなる墓碑である。国内で名高い鯨墓は、山口県長門市にあり、明暦三年(一六五七)浦の百姓に鯨組をつくり縄網をもって捕鯨し、藩は保護と奨励をした。元禄五年(一六九〇)これまで捕った鯨の供養碑を清月庵に建立したという。また、宮崎県日南市油津の人柱様には飢饉を救った鯨の供養碑がある。

解説 山本 正直